国語科学習指導案

日　時　令和７年 12 月９日（火）
５校時　13：50～14：35
学校名
対　象　第４学年　組　　名
会　場　２階　４年　組教室
授業者

１　単元名　気持ちの変化に気を付けて読み、物語のみりょくを見つけよう。
教材名　「ごんぎつね」（光村図書　４年下）

２　単元の目標

・　様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕⑴オ

・　登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C⑴エ

・　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
〔思考力・判断力・表現力等〕C⑴オ

・　言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

３　本単元における言語活動

・　問いをつくって、物語を読み、考えたことを伝え合う活動。
（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C⑵イ）

４　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。（⑴オ））	①　「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C⑴エ） ②　「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C⑴オ）	①　進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。

５　指導観

⑴　単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）、第２章 第１節　国語　第２〔第３学年及び第４学年〕　２内容〔思考力、判断力、表現力等〕　C　読むこと⑴

> エ　登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
> オ　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

を受けて設定した。

本単元では、児童に「登場人物の気持ちの変化を捉える力」「文章を読んで感想や考えをもつ力」を身に付けられるようにすることを目指す。これらの力は相互に関連しており、物語の構造や内容を深く理解し、その理解に基づいて自分の考えや感想をもつことにつながっていく。そこで、本単元の学習課題を「気持ちの変化に気を付けて読み、物語のみりょくを見つけよう。」と設定した。ここでい

う「みりょく」とは、単なる「よさ」ではなく、ごんの気持ちの変化、つぐないの行動、兵十との関係の変化、悲劇的な結末、語り手の表現など、作品の構成や表現の巧みさに根ざした特徴を指す。児童がこれらを本文の根拠に基づいて捉え、結末について自分の感じ方や考えを伝え合うことを目指す。

これらの力を身に付けられるようにするための言語活動として、「問いをつくって、物語を読み、考えたことを伝え合う活動」を位置付ける。児童が自ら問いを立て、グループで共有し、全体で検討する過程を通して、学習の見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。

「登場人物の気持ちの変化を捉える力」については、初読後の感想を出発点に、児童が探究したい問いを個別にもてるよう促す。同時に、登場人物の関係や時・場の設定、出来事の流れなど、物語の構造と内容の把握を丁寧に行うことで、児童が「話し合う価値のある問い」（心情・構成・語り手・情景などに迫る問い）を立てられるようにする。

次に、「文章を読んで感想や考えをもつ力」については、学習課題「『ごんぎつね』のみりょくは何か」の解決に向けて、問いに沿って読みを深め、魅力に結び付く叙述（登場人物の行動、心情、気持ち、情景、語り手の表現など）を根拠に自分の考えをまとめていく。その後、グループや全体で交流し、友達の考えと比較しながら自分の感想や考えを見つめ直すことで、より根拠のある理由を基に自分の考えをもつことができるようにする。さらに、毎時間の振り返りでは、「友達の意見を聞いて気付いたこと」「自分の考えがどう変わったか、明確になったか」を叙述に基づいた言葉を活用して整理し、魅力との関係を明らかにしていく。こうした振り返りを通して、児童の考えの変容だけでなく、考えの明確化や新たな視点など、児童が自分の学びを言語化することで、感想や考えをもつ力につなげていく。

⑵　児童観

児童はこれまで、「白いぼうし」や「一つの花」などの文学的な文章を読む学習を通して、自ら問いを立て、その問いについて話し合いながら解決していく学習を経験してきた。初読の感想とともに、疑問に思った点や不思議に感じたことを共有する中で、「本文を読んでも答えが見付けられそうにない問い」「すぐに解決できそうな問い」「みんなで考えたい問い」といったように、問いのレベルを児童とともに整理し、問いの解決に向けて話し合う活動を行ってきた。児童が自ら問いを設定し、学習計画を立てることで、単元を通して見通しをもち、主体的・意欲的に「読みたい」「考えたい」という学習意欲が継続していた。また、問いの解決に向けて話し合う中で、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読んだり、登場人物の性格を捉えたりすることもできていた。一方で、場面と場面のつながりを捉え、それを登場人物の気持ちの変化と結び付けて読む力については、身に付けている児童もいるが、３割ほどの児童が難しさを感じていた。

「友情のかべ新聞」の学習では、場面のつながりを意識しながら登場人物の気持ちの変化を想像し、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりする活動を取り入れたことで、こうした力を身に付ける児童が増えてきた。しかし、物語全体を通して「おもしろい」と感じたことについて、自分の考えを形成することができている児童は６割程度であった。

そこで、本単元では、場面と場面とのつながりを捉え、それを登場人物の気持ちの変化と結び付けて読む力を身に付けられるようにする。また、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりすることを通して、多様な考えに触れ自らの考えを深める学習活動を毎時間取り入れる。こうした交流を通して、児童が物語について自分では気付かなかった視点や価値観に気付き、物語の魅力について根拠をもって表現できるようにしていく。

⑶　教材観

「ごんぎつね」は、登場人物の気持ちの変化や情景描写が的確に表現されており、長年にわたり教科書に掲載されている文学作品である。ごんと兵十の行動や気持ちの変化、すれ違いによるやるせなさなどが、場面をつなげながら読むことで深く味わえる構成となっており、児童の心情に働きかける力をもつ教材である。本学級の児童にとっても、叙述を手がかりに登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを読み取り、想像したことを友達と交流することで、互いの感じ方の違いに気付き、考えを深めることに適した教材である。

「ごんぎつね」　教材文の構成表

6 くりを持って行って、兵十にうたれて倒れるごん。	5 つぐないが分かってもらえず、つまらないと思うごん。	4 お念仏に行く兵十と加助の後をつけて話を聞くごん。	3 いわしや、くり、松たけを兵十に届け、つぐないをするごん。	2 兵十のおっかあの葬列を見て、後悔するごん。	1 うなぎをとる兵十に対して、いたずらをするごん。	場面
・「ごん、おまいだったのか。いつもくりをくれたのは。」 ・ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。 ・青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。	・兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。 ・「へえ、こいつはつまらないな。」 ・「おれがくりや松たけなんかを持っていってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」	・「おっかあが死んでからは、だれだか知らんが、おれにくりや松たけなんかを、毎日毎日くれるんだよ。」	・「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」 ・まず一つ、いいことをしたと思いました。 ・次の日も、その次の日も、…その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本持っていきました。	・兵十のおっかあは、とこについていて、うなぎを食べたいと言ったにちがいない。 ・そのまま、おっかあは、死んじゃったにちがいない。ああ、うなぎを食べたい…と思いながら死んだんだろう。	・ひとりぼっちの子ぎつね ・いもをほりちらしたり、…いろんなことをしました。 ・はりきりあみのかかっている所より下手の川の中を目がけて ・あなの外の葉の上にのせておきました。	・登場人物の行動や心情
・「ごんぎつねめ」から「ごん」、「おまい」という呼称の変化や、火縄銃をばたりと取り落としたことから、兵十の気持ちの変化が想像できるようにする。 ・気付いてくれた嬉しさや悲しいけれど仕方ないなど、ごんの行動と気持ちの変化を結び付けて想像できるようにする。	・ごんと兵十の距離が近付いていること、二人の話が聞きたいごんの気持ちが想像できる。 ・自分がしたことに気付いてもらえない悲しさや寂しさがある中で、翌日のごんの行動から、兵十に共感し、寄り添っていることや、いたずらに対する後悔の深さが想像できるようにする。	・兵十は、ごんの姿を一の場面から一度も見ておらず、ごんに対して、うなぎを盗られた怒りや憎しみの気持ちのままである。このことから、ごんがしていることとは思わず、不思議に思っていることが読み取れる。	・「あんないたずらをしなけりゃよかった。」を受けて、自分と兵十を重ね、共感していることを表している。 ・ごんの兵十に対する思いが大きくなっている一方で、兵十はごんの気持ちの変化に気付いていないことを押さえる。	・おっかあが死んだ兵十の様子。 ・ごんが兵十の母親の死を自分のいたずらのせいだと思い込んでしまっている。このことから、つぐないをしようと思ったきっかけになっていることに着目し、ごんの気持ちの変化が想像できるようにする。	・兵十からの伝承の物語。 ・ごんの人物像。 ・ごんの悪賢さ。 ・食べたくてうなぎを盗んだわけではなく、ごんにとってはいたずらであることが分かる。	・場面の特徴

６　年間指導計画における位置付け　（第４学年　読むこと　文学的な文章）

時期	単元名・「教材名」	重点指導事項（文学的な文章）
４月	ふしぎな出来事をとらえて読み、考えたことを話そう。「白いぼうし」	イ　登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
６月	場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう。　「一つの花」	エ　登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
９月	つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことをまとめよう。　「友情のかべ新聞」	エ　登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
12 月	気持ちの変化に気を付けて読み、物語のみりょくを伝えよう。「ごんぎつね」	エ　登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 オ　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
２月	読んで考えたことを、友達と伝え合おう。 「スワンレイクのほとりで」	カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

7　単元の指導計画と評価計画（全 12 時間）

過程	時間	学習目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
学習目的の理解・見通し	第１時	「ごんぎつね」を読み、感想や問いをもつことができる。	１　物語文を読むときの視点や問いの種類について確認する。 ２　単元の学習課題を確認する。 「ごんぎつね」のみりょくは何か。 ３　これまで読んできた物語文の魅力について具体的に振り返る。 （例）人物像・会話文・登場人物の関係性・気持ちの変化・物語の展開・表現　等 ４　「ごんぎつね」を読む。 ５　登場人物のしたことや主な出来事に着目して感想を書き、次時の見通しをもつ。 ○気になる言葉や好きな場面、魅力だと感じたところ。 ○どんな話か、そう思った理由。 ○読んで疑問、不思議に思ったことなど	
	第２時	「問い」を整理し、「すぐに解決できそうな問い」「みんなで考えたい問い」を捉えることができる。	１　感想から単元を通して考える学習課題を確認する。 気持ちの変化に気を付けて読み、物語のみりょくを見つけよう。 ２　本時の学習課題を確認する。 問いを整理して、学習計画を立てよう。 ３　問いを「本文を読んでも答えが見つけられそうにない問い」「すぐに解決できそうな問い」「みんなで考えたい問い」に分ける。 ４　グループや全体で「問い」を共有し、今後の学習の見通しをもつ。 ・　児童の問いは模造紙やＩＣＴ端末で掲示し単元を通して参照できるようにする。	
構造と内容の把握	第３時	「すぐに解決できそうな問い」について、叙述を基に読み、登場人物とその人物像を捉えることができる。	１　「すぐに解決できそうな問い」を全体で確認する。 ２　叙述を基に、確かめながら読む。 ３　第１場面前半を読み、登場人物とその人物像を捉える。 ごん　・　森の中に穴をほって住んでいる ・　ひとりぼっちの小ぎつね→子ぎつね ・　夜でも昼でもいたずらばかり ・　いたずら好き 村人たち　・　家が燃えてしまうかも ・　いたずらなんてものじゃない ・　迷惑 ４　本時の学習を振り返る。	アー① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。（ＩＣＴ端末・ノート・観察）
	第４時	時や場の設定、出来事など、話の流れを確かめることができる。	１　本時の学習課題を確認する。 お話の大体の内容を確かめよう。 ２　物語の大体を捉えながら読む。 ○　大まかなあらすじ 第１場面…いたずらばかりするごん 第２場面…いたずらを後かいするごん 第３場面…つぐないを始めるごん 第４場面…兵十と加助の後をつけて話を聞くごん 第５場面…つぐないが分かってもらえず、つまらないと思うごん 第６場面…兵十にうたれてたおれるごん ３　本時の学習を振り返る。	

精査・解釈	第５時	場面ごとのごんと兵十の行動や会話、気持ちの変化に着目し、叙述を基にして、互いの見方や関係の変化を具体的に想像することができる。	１　本時の学習課題を確認する。 ごんと兵十の関係を場面ごとに読み取ろう。 ２　ごんが兵十に対して、したことやそのときのごんの気持ちが一番分かる言葉や文を確かめ、想像したことを共有する。（グループ・全体） ３　兵十がごんに対して、したことやそのときの兵十の気持ちが一番分かる言葉や文を確かめ、想像したことを共有する。（全体） ４　学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	イ－① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ＩＣＴ端末・ノート・観察） ウ－① 進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。（ＩＣＴ端末・ノート・観察）
	第６時	ごんがつぐないをし続けた理由について、叙述を基に具体的に想像することができる。	１　「問い」を確認し、学習の見通しをもつ。 兵十のおっかあが死んでしまって、どうしてごんは、つぐないをしたのだろうか。 ２　登場人物の性格、会話、行動、気持ちの変化など、本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 ３　考えを共有する。（グループ・全体） ４　グループや全体の検討を踏まえ、「問い」についての考えをまとめる。 ５　次時の学習課題を確認する。	
	第７時	ごんが兵十と加助の話を聞こうとした理由について、本文の叙述を根拠に具体的に想像することができる。	１　「問い」を確認し、学習の見通しをもつ。 どうしてごんは、兵十と加助の話をそんなに聞きたいのだろうか。 ２　会話、行動、気持ち、情景など、本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 ３　考えを共有する。（グループ・全体） ４　学習を振り返り、「問い」についての考えをまとめる。 ５　次時の学習課題を確認する。	
	第８時 （本時）	ごんと兵十の行動や会話、情景に着目しながら、ごんと兵十の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像することができる。	１　「問い」を確認し、学習の見通しをもつ。 兵十が「ごん、おまいだったのか…」と言ったとき、ごんはどんな思いでうなずいたのだろうか。 ２　今までの学習を振り返り、兵十が「ごん、おまいだったのか…」と言ったとき、兵十はどんな思いだったのかを考える。 ３　これまでのごんの行動や思いを根拠に、問いに対する自分の考えとその理由を書く。 ４　グループで考えを共有する。 ５　全体で考えを共有する。 ６　学習を振り返り、「問い」についての考えをまとめる。 ７　次時の学習課題を確認する。	イ－① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ＩＣＴ端末・ノート・観察） ウ－① 進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。（ＩＣＴ端末・ノート・観察）
	第９時	ごんの思いが兵十に伝わったのかどうかについて、これまでの学習を基に、ごんと兵十それぞれの気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、自分の考えをもつことができる。	１　「問い」を確認し、学習の見通しをもつ。 ごんのつぐないの思いは、兵十に伝わったのか、伝わっていないのか。 ２　「問い」について、これまでの学習を基に、ごんや兵十の思いを振り返り、本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 ３　考えを共有する。（グループ・全体） ４　兵十は、ごんの思いが伝わったからこそ、誰かにごんのことを話したのか、その理由を考える。 ５　全体で考えを共有する。 ６　本時の学習を振り返る。	

考えの形成	第10時	これまでの学習を振り返り、物語を読んで理解したことに基づいて、問いについての考えや感じたことを叙述を基に伝え合うことができる。	1　「問い」を確認し、学習の見通しをもつ。 これまでの学習を振り返り、「新たに考えたい問い」や、「もう一度考えたい問い」を考えよう。 2　これまで解決してきた問いを振り返る。 3　考えを共有する。(グループ・全体) 4　グループや全体の検討を踏まえ、「問い」について考えたい理由を共有する。 5　自分が探究したい問いを決め、類似した「問い」をもつ児童同士で交流する。 ※児童から問いが出ない場合には、授業者から問い掛ける。 物語の最後の一文が、どうして白いけむりではなく、青いけむりなのか。 6　学習を振り返り、「問い」についての考えをまとめる。 7　次時の学習課題を確認する。	イ－② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(ノート・観察) ウ－① 進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。(ノート・ＩＣＴ端末・観察)
共有	第11時 第12時	これまでの学習を振り返り、物語を読んで理解したことに基づいて、「ごんぎつね」の魅力について自分の感じたことや考えを整理し、叙述を基にして文章をまとめることができる。	1　本時の学習課題を確認する。 「ごんぎつね」のみりょくを考えよう。 2　これまでの学習を振り返り、「ごんぎつね」の魅力が伝わる文章表現や場面、文章全体を通してどんな話か、そう思った理由などについて、自分の考えをもつ。 3　考えを共有する。(グループ・全体) 4　グループや全体で交流し、自分の考えをまとめる。 5　文章を読んで感じたことや考えたことを友達と共有し、友達の感じ方などのよさを伝え合う。 6　単元全体を振り返る。	

8　指導に当たって

班テーマ

「児童が主体的に学び、確かな力を身に付ける授業づくり」

⑴　児童の問いと見通しの明確化

本時では問い「兵十が『ごん、おまいだったのか…』と言ったとき、ごんはどんな思いでうなずいたのだろうか。」を中心に、児童が自分の考えをもてるようにする。そのために、どの場面を読み返すかを児童自身が選び、理由をもって説明できるようにする。これまでの読みを基にごんの気持ちを具体的に想像できるようにする。さらに、単元を通して児童の問いを授業の軸に据え、第10時ではこれまでの問いを振り返り、新たな問いを再構成する活動を取り入れることで、探究的な学びを深め、視点を広げられるようにする。

⑵　叙述を根拠にした考えの形成

本文から気持ちが分かる言葉や文を抜き出し、理由とともに自分の考えをまとめるようにする。そのために、児童が場面の移り変わりに着目して、気持ちや関係の変化を整理できるよう、①ベン図や時系列表などの思考ツールを使うこと、②板書では問いを中心に構造的に整理すること、③ＩＣＴ端末や全文シート、ノートを用いて考えを記録・分類することで、思考過程の「見える化」を図る。

⑶　交流と振り返りの工夫

ペアやグループで理由を示して発言し、友達の考えと自分の考えを結び付けて交流することで、多様な視点に触れられるようにする。交流後は叙述を用いて「友達の意見で気付いたこと」「自分の考えがどう変わったか、明確になったか」を記述し、考えの深まりや変容を言語化して学びを自覚できるようにする。さらに、これまでの問いを振り返り、「新たに考えたい問い」や「もう一度考えたい問い」を考える活動を通して、これまでの読みを整理し、物語の魅力を捉える視点を広げる。こうした問いの再構成により、語り手の表現や構造に着目し、魅力を根拠とともに表現できる力を育てる。

９　本時（全 12 時間中の第８時）

⑴　本時の目標

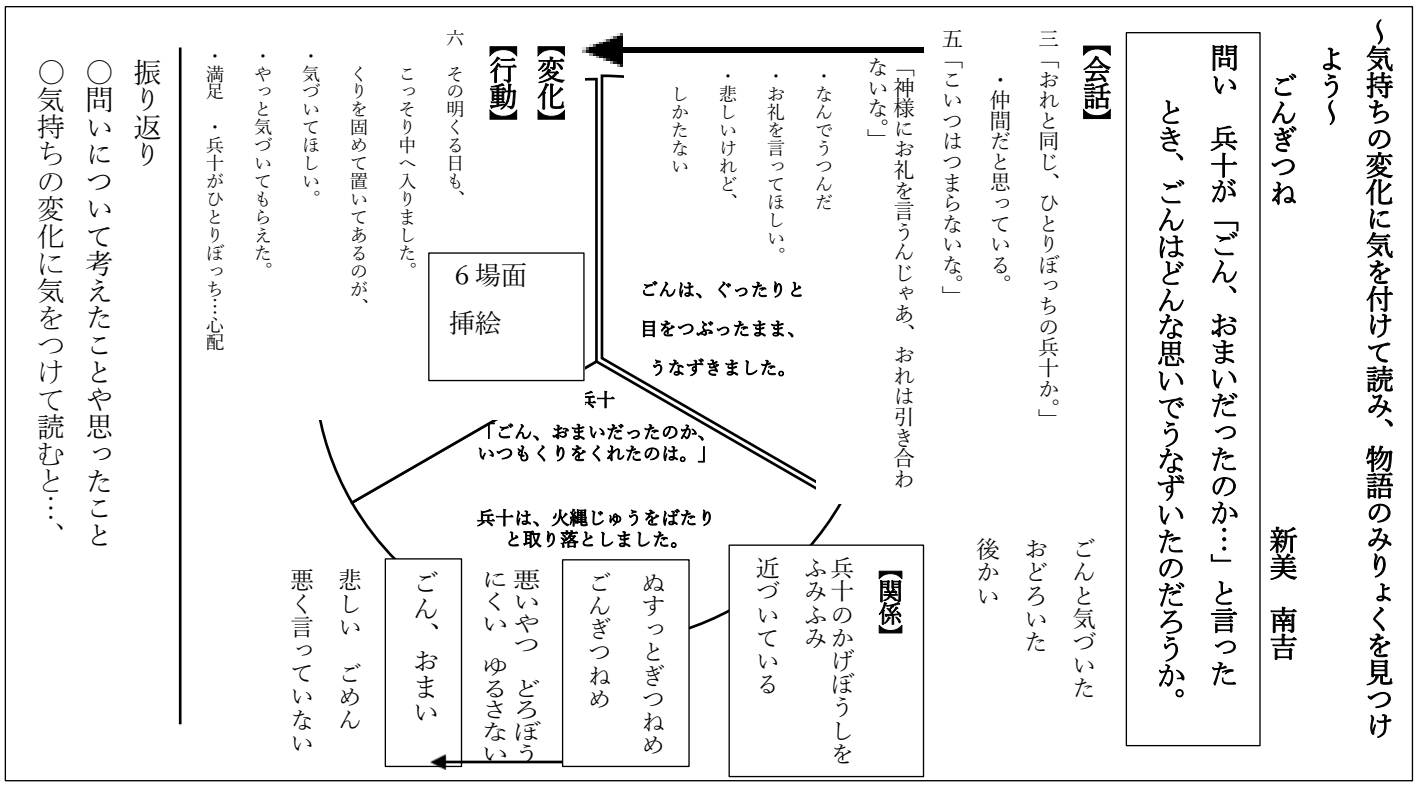
ごんと兵十の行動や会話、情景に着目しながら、ごんと兵十の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像することができる。

⑵　本時の展開

時間	学習活動　C:予想される児童の反応	指導上の留意点	評価規準 （評価計画）
導入 10 分	１　「問い」を確認し、学習の見通しをもつ。 兵十が「ごん、おまいだったのか…」と言ったとき、ごんはどんな思いでうなずいたのだろうか。		
	２　今までの学習を振り返り、兵十が「ごん、おまいだったのか…」と言ったとき、兵十はどんな思いだったのかを考える。 C:今までくりや松たけをくれていたのは、神様じゃなくて、ごんだったと分かって兵十はすごく驚いたと思います。 C:火縄銃をばたりと取り落としているから、自分のしてしまったことを後悔していることが分かります。 ３　これまでのごんの行動や思いを根拠に、問いに対する自分の考えとその理由を書く。 C:兵十にやっと気付いてもらえて嬉しかったと思います。理由は、ごんは自分がくりをあげていることを兵十に気付いてほしいと思っていたからです。 C:ありがとうという気持ちだと思います。理由は、兵十に神様じゃなくてごんがしたことだと気付いてもらえたからです。	・兵十にとってごんは、ずっと「ぬすっとぎつねめ」であったことを想起したり、「ばたりと取り落とした」という言葉に触れたりして、兵十の気持ちの変化に着目できるようにする。 ・「うなずいた」という行動に着目して、場面の移り変わりと結び付けて気持ちを具体的に想像できるようにする。 ・ごんの後悔やつぐないをしようという決意などが分かる叙述に着目して、自分の考えに生かせるようにする。	
展開 25 分	４　グループで考えを共有する。 C:ごんは、くりや松たけのつぐないを続けてきたのは、兵十のためにしていたのに、うたれてしまって悲しい気持ちだと思う。 C:ごんは自分のせいで兵十のおっ母が死んだと、かんちがいしているから、うたれても仕方ないとも思っているんじゃないかな。 C:兵十からするとごんのことを「ぬすっとぎつね」と思っているから、ごんはうたれても仕方ないと思っているんじゃないかな。 ５　全体で考えを共有する。 C:第３場面の「おれと同じひとりぼっちの兵十か。」という文から、兵十のことを友達のように思っていたと思うから、兵十にうたれて悲しい気持ちだと思います。 C:第５場面の「兵十のかげぼうしをふみふみ」という文から、ごんが兵十にすごく近づいていることが分かるから、それだけ神様じゃなくておれがしているんだよと伝えたいという気持ちがあると思います。だから、そのことが伝わってうれしい気持ちでうなずいたと思います。 C:ごんは「引き合わない」と思っていても、その次の日には、くりを持って兵十の家に行っているから、それだけ自分がしていることを伝えたいのだと思います。 C:ごんは兵十がいるのに家の中に入っていたから、うたれても仕方ないという覚悟があっ	・考えとその理由となる根拠を示しながら話し合うことを確認する。 ・互いの考えを話し合い、共通点や相違点にも着目できるよう交流の視点「会話」「行動」「変化」「場面」「関係」などを示す。 ・多様な解釈が予想されるため、単なる発表の場にならないように、なぜそう考えたのかという理由や本文の読み方に着目できるようにする。 ・友達の発言と自分の考えを結び付けて発表したり、友達の考えを紹介したりしながら、自分の考えとの共通点や違いを示すなど、発言の仕方を意識するよう促す。	イ－① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（ＩＣＴ端末・ノート・観察） ウ－① 進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。（ＩＣＴ端末・ノート・観察）

	たと思います。それだけ兵十に気付いてほしい気持ちが強くなっていると思います。 C：私は、兵十が火縄銃をばたりと取り落としたという文のところから、ごんの気持ちが兵十に伝わったと思いました。		
まとめ 10分	6　学習を振り返り、「問い」についての考えをまとめる。 C：ごんは、満足して死ぬことができたんじゃないかと思います。理由は、兵十につぐないをしていたことも伝えられたし、ちゃんとうなぎを盗んでしまったことのつぐないもできたからです。 C：今までのごんの行動や会話に注目して読むと、物語全体が今日の問いにつながっていることが分かりました。 C：気持ちの変化に気をつけて読むと、ごんは場面ごとに変化しているけれど、兵十は最後だけしか変化していないことが分かりました。 7　次時の学習課題を確認する。	・話し合いを通して考えたことを基に、自分の考えをまとめるように促す。 ・本時の学習において、友達の考えから気付いたことや大事だと思ったこと、今後活用できる読み方を振り返るよう助言する。	

⑶　板書計画



⑷ 授業観察の視点

- 本文の叙述や語句を根拠にして、場面の移り変わりと気持ちの変化を結び付け、具体的に想像できているか。
- グループや全体での交流において、理由を示して自分の意見を伝え、友達の考えを受けて自分の考えを見直しているか。
- 授業者が児童の考えの理由を構造的に板書し、また児童がＩＣＴや全文シートを活用して本文に書き込みながら、考えを整理して「見える化」できているか。